

平成 20 年度東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修 複合領域コース(建築・土木・環境)に参加して

三重大学工学部工学研究科技術部

和藤 浩

watoh@arch.mie-u.ac.jp

1. はじめに

平成 20 年 9 月 10 日(水)～12 日(金)に名古屋大学において平成 20 年度東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修複合領域コース(建築・土木・環境)が開催され、受講者は、14 名の参加があり、三重大学からは、私 1 名が参加した。ここでは、簡単ではあるが、講義、実習の内容と感想を述べ報告を行う。

2. 講義・実習

講義・実習は以下の内容で行われた。

第一日目(9 月 10 日(水))

一般講義「名古屋大学耐震改修の現状について」：名古屋大学理事

専門講義 1「東海、北陸の地震」：名古屋大学教授

専門講義 2「応急危険度判定について」：名古屋大学准教授

第二日目(9 月 11 日(木))

専門講義 3「必ず出会う大地震そのとき大学職員は？」：名古屋大学教授

実習 1「振動台による実験と見学」：名古屋大学准教授、名古屋大学准教授、名古屋大学技術専門員

専門講義 4「建築分野におけるコンクリートに関わる現状と課題」：名古屋大学准教授

実習 2「コンクリート強度実験」：名古屋大学技術専門職員

第三日目(9 月 12 日(金))

専門講義 5「防災に関連する計測技術の理論と実際」：名古屋大学准教授

実習 3「地盤構造の推定」：名古屋大学技術専門員

現場見学「名大病院中央診療棟の免震構造」：名古屋大学施設管理部

3. まとめ

本研修において以下の事が修得した。

- ・名古屋大学における耐震改修の現状やキャンパスの地層の様子などがわかった。
- ・大学が震災した場合の大学職員の役割など改めて認識することができた。
- ・地域、大学、家庭などの防災に対する大切さを実感することができた。
- ・二軸の振動台でこれまで起こった地震を体感することができ、大地震の恐ろしさを実感した。
- ・コンクリートに関する講義、実習では、私が普段、専門としている分野であり、改めて勉強することができた。
- ・見学会の名大病院中央診療棟の改修工事では、普段は見ることがあまりできない免震構造がみることもできた。

今回、複合領域の初めての開催であったが、名古屋大学の技術職員のスタッフの皆様の計画・準備の成果により大変有意義な内容の研修であった。また、普段なかなか交流をもつことができない他大学等の建築・土木分野の技術職員の方々とも情報交換ができ、今後の技術交流する上でも大きな成果を得た。